

サンゴ礁生態系保全行動計画2022–2030

フォローアップ会議

資料2 サンゴ礁生態系保全行動計画2022–2030 の評価指標について

サンゴ礁生態系保全行動計画の指標検討の流れと評価体制

平成22(2010)年4月：「サンゴ礁生態系保全行動計画」策定（第1期計画）

平成27(2015)年3月：「サンゴ礁生態系保全行動計画2016-2020」策定（第2期計画）



令和4(2022)年3月：「サンゴ礁生態系保全行動計画2022-2030」策定（第3期計画）



令和4～6年度：サンゴ礁生態系保全行動計画の評価指標の検討

第1期や第2期計画は、指標の設定がなく、定性的な評価であった。

第3期は、計画の達成状況を指標を用いて評価し、取組みの推進等につなげるべく、指標について検討し、令和6年度に指標を決定。



令和8(2026)年度：中間評価を実施予定

令和11(2029)年度：最終評価を実施予定

指標は大きく下記の3つに区分

■**共通指標**：環境省にて取得しているデータ、全国的な公開データ等を用いて、全国一律で指標を設定し、評価を実施

■**共通指標（個別データ）**：同じ指標で評価するが、地域の実情に応じて、評価に使用するデータをカスタマイズ。各地域の個別データは都県や市町村から提供。

■**個別指標**：特定の地域のみで指標による評価を行うもの（地域の要望ニーズに応じて設定）

事務局（環境省）が個別シートを作成

検討委員による助言

個別シートをもとに、事務局による全体的な評価のとりまとめ

都・県が個別シートを作成

指標一覧（指標の関係性図）評価指標検討会（1/27）において決定

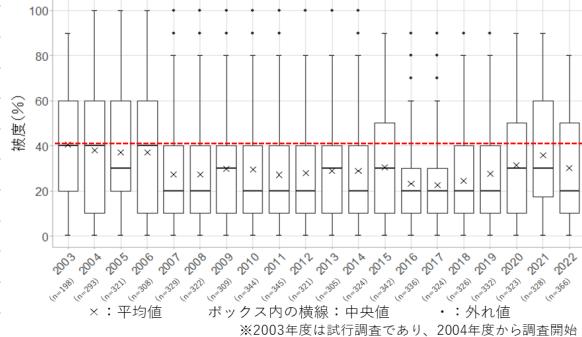


- 共（共通指標）：全国共通の指標（同一データ使用）、共I（共通指標（個別データ））：全国共通の指標だが、データは地域により個別データを提供いただく指標、個（個別指標）：地域の実情に応じて設定する指標

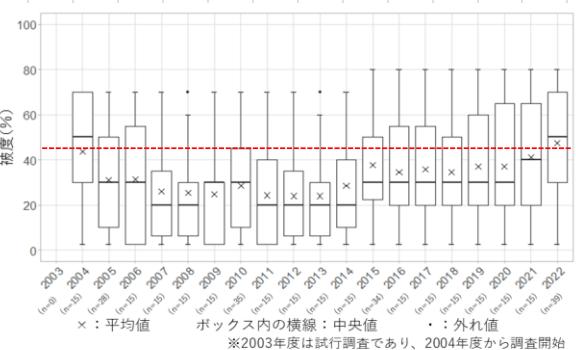
評価指標の個別シート（例）「A-1 サンゴの被度」

共通指標						評価年	2024年						
番号	A-1	指標名	サンゴの被度（%）	関連する行動指標	1-1~1-8、2-1-1~2-1-3、2-2-1~2-2-3								
指標の解説		サンゴ（造礁性サンゴ類）が着生可能な海底面（泥地や砂地などを除く）に占める生存サンゴの上方からの投影面の被覆の程度											
方向性		被度が高いほど良い（ただし、評価にあたっては各場所における良好さの基準となる被度（例：過去の最大値）の考慮が必要）											
データ		環境省モニタリングサイト1000サンゴ調査結果（2004年～）のサンゴの被度データ。太平洋側沿岸において全国最大26サイト568箇所でモニタリングを実施している。											
解析方法		モニタリングサイト1000における調査地点データを県別に分類し、各県・地域単位で被度の平均値等の推移を示す。 ※5年に一度調査を実施する遠隔地サイトの調査地点は除外											
適用範囲/ 該当地域		全国一律	沖縄県	鹿児島県	宮崎県	熊本県	長崎県	高知県	愛媛県	徳島県	和歌山県	東京都	その他
評価主体		環境省											
備考													
指標による現状								備考					
サンゴ礁域（過去の被度平均値の最大は40.6%）								評価の各適用範囲における過去の被度平均値の最大を目安とした、毎年の被度の推移。					
<p>※2003年度は試行調査であり、2004年度から調査開始</p>													
高緯度サンゴ群集域（過去の被度平均値の最大値は42.6%）													
<p>※2003年度は試行調査であり、2004年度から調査開始</p>													

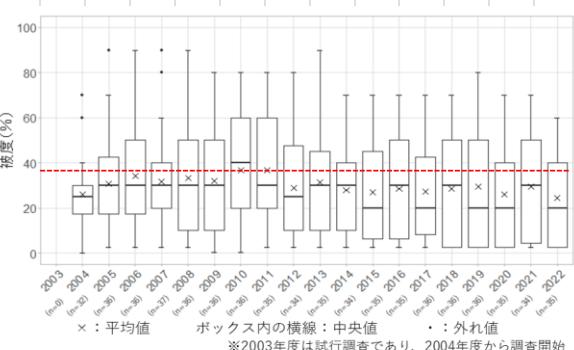
沖縄県（過去の被度平均値の最大は40.6%）



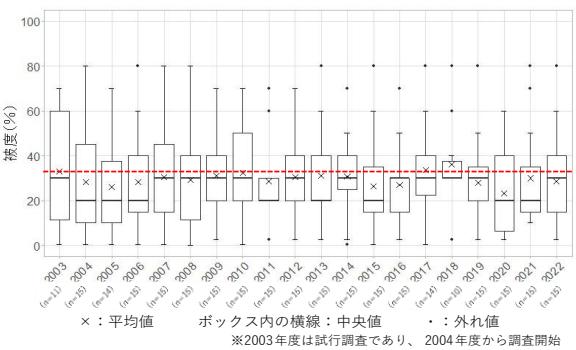
鹿児島県（サンゴ礁域、過去の被度平均値の最大は47.4%）



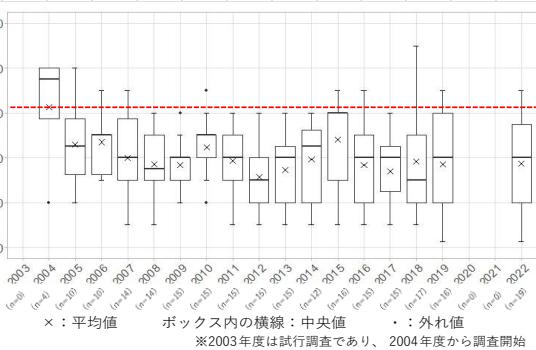
鹿児島県（高緯度サンゴ群集域、過去の被度平均値の最大は36.7%）



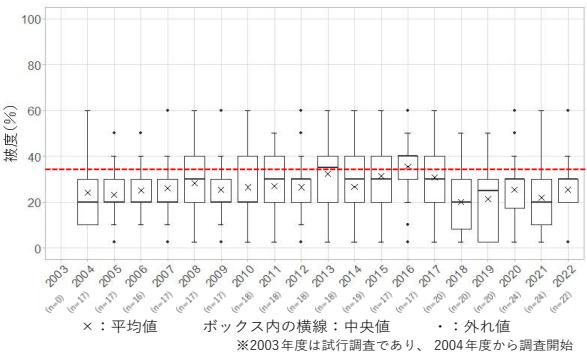
熊本県（過去の被度平均値の最大は36.2%）



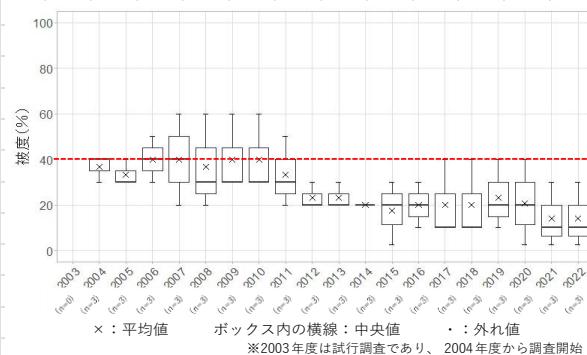
長崎県（過去の被度平均値の最大は62.5%）



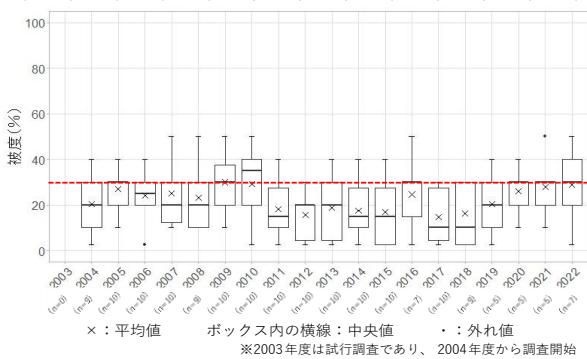
高知県（過去の被度平均値の最大は35.4%）



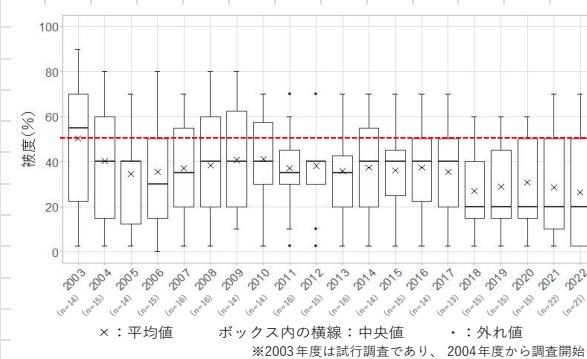
愛媛県（過去の被度平均値の最大は40%）



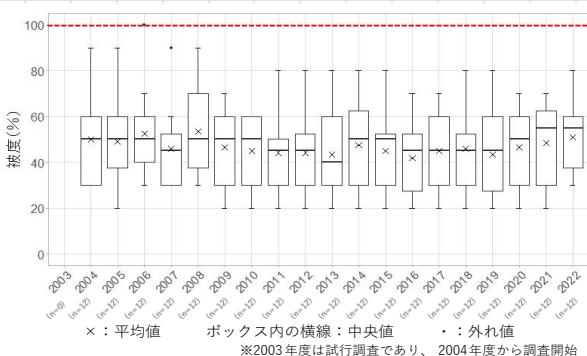
徳島県（過去の被度平均値の最大は30%）



和歌山県（過去の被度平均値の最大は50.2%）



東京都（過去の被度平均値の最大は53.3%）



サンゴ礁生態系保全行動計画と指標の関係

「サンゴ礁生態系保全行動計画2022-2030」における目標と取り組む事項

目標：将来にわたり、サンゴ礁生態系が健全な状態で維持され、その恵みを享受できる自然と共生する社会の実現を目指す。

2030年度末までに広域かつ中期的視点の取組と、地域社会と結びついた取組の実践を加速

計画内に重点課題ごとに各主体が取り組む事項を記載（資料1参照）

重点課題1：知見の充実、モニタリング・管理の強化

重点課題2-1：陸域からの負荷への対策推進

重点課題2-2：持続可能なツーリズムの推進

重点課題2-3：地域のくらしとサンゴのつながり構築

指標を用いて定量的に評価することで、現行の課題や今後必要となる施策について整理が可能
➡2030年度以降の計画に向けた検討へ

各主体等から取組の進捗、追加取組等の報告（フォローアップ会議／調査票等）を活用して評価

※計画記載の取組と指標の関連性は資料2別紙参照

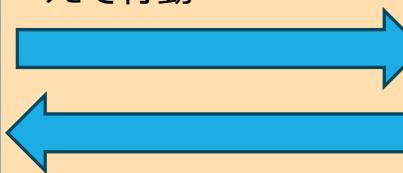
各主体等から報告頂くことで、全国の状況が把握できるだけでなく、優良な手法や最新情報等の共有がはかられる。

指標（状態目標と行動目標）

状態目標（アウトカム）

- A-1 サンゴの被度
- A-2 サンゴの分布面積
- A-4 サンゴの白化率
- A-9 オニヒトデ個体数推移 など

状態の変化等を踏まえて行動



状態を良くするために行動

行動目標（アウトプット/ターゲット）

- 1-5 自然再生を行う自治体数
- 1-6 モニタリングや調査を実施している自治体数
- 1-7 食害生物オニヒトデ/巻貝等）の駆除を行う自治体数 など